

高木三家文書の現状と統合 — 高木家文書調査報告2019 —

Current state and Integration for Takagi Family Documents

名古屋大学附属図書館研究開発室
Nagoya University Library Studies

石 川 寛
ISHIKAWA, Hiroshi

Abstract

The Takagi Family Documents held at Nagoya University Library is a collection of old documents passed down through the Nishi-Takagi family, former retainers of the shogun. Currently, Nagoya University Library Research takes over the project of organizing the remaining materials. In parallel with this, we are also investigating related documents that exist outside the university. Therefore, this paper introduces documents that were newly confirmed after FY2014, again reports the current status of the three Takagi families document, and at the same time present digital library concept for the integration and sharing of the three Takagi families document.

Keywords

Takagi Family Documents (高木家文書),
Takagi Family Documents Digital Library (高木家文書デジタルライブラリー),
Integration of historical materials (歴史資料の統合)

はじめに

名古屋大学附属図書館が所蔵する高木家文書は、美濃国石津郡時・多良両郷（現在の岐阜県大垣市上石津地域）を領有した旧旗本・西高木家の旧蔵文書群である。総点数は10万点にのぼると見積もられており、また木曾三川の治水関係資料が豊富に存在するなど、旗本家文書としては他に例をみない傑出した規模と内容を有している。

旗本高木家は、附属図書館所蔵文書が伝来した西高木家と、東高木家・北高木家の三家からなり、三家で交代寄合美濃衆を形成していた。北高木家の伝来文書は早くに散逸したようで現在確認されているものはわずかである。東高木家の伝来文書は名古屋市蓬左文庫をはじめとする諸機関や個人宅に1万点ほどが現存している。また、西高木家伝来文書についても、附属図書館以外に数千点の存在が確認されている。

高木家文書の整理事業を引き継いだ附属図書館研究開発室では、高木三家文書の全体像を把握すべく、本学以外の高木家文書についても積極的に調査に取り組んできた。これまでの活動により確認できた高木三家に係る文書群の現状については、2013年度に「高木三家文書の現状と課題—高木家文書調査報告2013—」（『名古屋大学附属図書館研究年報』11、2014年）において報告した。

また、高木三家文書の統合と共有化を高度に推進することを目的として、2015年度から科学研究費補助金基盤研究（B）「旗本高木家文書を中心とした分散資料の統合と共有化に関する研究」（課題番号15H03237、研究代表者・石川寛、研究分担者・秋山晶則、池内敏、斎藤夏来）が採択された。

本稿では、2014年度以降に新たに確認した文書群を紹介し、改めて高木三家文書の現状を報告すると共に、高木三家文書の統合と共有化に向けた取り組みを報告する。

I 西高木家文書

1. 旗本西高木家陣屋跡主屋襖下張文書

大垣市による旗本西高木家陣屋跡（大垣市上石津町宮、国史跡）の総合調査において、1896（明治29）年建造の主屋の襖から下張文書がみつきり、研究開発室がその整理を請け負った。

下張文書を剥がすとき現状記録を採らなかった

ため整理事業は困難を極めたが、断簡も含めると4274点が確認できた。

内容は、①西高木家に関わる文書（848点）、②山幡家に関わる文書（643点）、③宗門改に関する文書（143点）に大別できたが、下張文書の性格上、④高木家・山幡家のどちらとも断定しかねる文書が全体の約半分に当たる2640点にのぼった。年が確定できた文書は240点である。

①高木家に関わる文書は約半数を書状が占め、鎖・光照院（銚）など女性のものが目立つ。両名は西高木家11代経貞の娘で、鎖は彦根藩井伊家家臣の宇津木家へ、光照院は北高木家の貞郷へ嫁いだ。彼女らはいずれも実家の兄（西高木家12代貞広）や「まち」（待、貞広後室）へ宛てて多くの書状をしたためており、鎖の書状は50通近く、光照院の書状は40点近く発見された。附属図書館所蔵文書の中にも、鎖の書状が21通、光照院の書状が33通伝来しており、比較検討が可能である。たとえば、整理番号1-1-2の〔天誅組一件の模様にかんする書状〕は、前後が欠落しているため作成者や年月日が不明であったが、附属図書館所蔵文書の中に文久3（1863）年9月朔日付で鎖が兄貞広に宛てた類似の書状（補遺D-1-(3)-466-あ）が存在することから、これも鎖の書状であることが推測され、幕末情勢についての高木家の情報ルートとして、宇津木家の存在が浮かび上がってくる。

貞広を指す弾正や鉄三郎宛の書状類も30通以上みつかった。この他、鎖の嫁ぎ先である宇津木家、後に西高木家13代目を継ぐ成瀬福之助、大垣藩戸田家重臣の戸田縫殿（母は高木経貞妹）、尾張藩の間宮外記などの書状も含まれていた。その大半が年賀状や寒中見舞いである。

明治以降の文書では西高木家13代貞正が上石津多芸郡長を務めていた時代（1880～93年）の下書・写が比較的多く残っていた。

②の山幡家は、美濃国多芸郡石畑村（岐阜県養老郡養老町）で江戸時代初期より名主を務めた家である。大垣城主戸田氏がこの地を訪問したときには弁当役や案内役を仰せつかったという（養老町教育委員会の中島和哉氏のご教示による）。ここでは私的な書状や金銭書付が多く、大半を山幡源五兵衛宛のものが占め、次に山幡五郎右衛門、山幡数之輔の関係文書がつづく（この3人の続柄は不明）。山幡家は西高木家文書に登場しないの

で、これらは高木家伝来とは考えられない。廃棄されたものが古紙業者を通じて高木家にわたり、下張として利用されたものと思われる。

③は宗門御改并五人組帳、宗旨請証文、就宗門御改五人組中御請帳、それらの包紙・紙袋に分別できる。このうち宗門御改并五人組帳と宗旨請証文は高木家領内を対象としており、従来の高木家文書の欠落を補う可能性もある。これに対して就宗門御改五人組中御請帳は類似の文書が高木家文書にみあたらず、別系統の文書群と推測される。

2. 岡田家文書

岡田家文書は、岡田氏から海津市歴史民俗資料館に寄贈された文書群である。襖下張用に岡田氏が入手した文書群と伝わっており、そのため内容は岡田家とは関係がない。この中に西高木家文書が含まれているとの情報をうけて、研究開発室において調査と整理を実施し、海津市教育委員会と共同で2017年12月に『海津市歴史民俗資料館所蔵岡田家文書目録』を刊行した。

調査の結果、内容は、①西高木家に伝来した書状・書付類、②高須藩士の山内郷右衛門・主馬吉に関係する書状類、③どちらにも属さないその他の文書に大別され、総点数は958点を数えた。

このうち①西高木家に伝来した書状・書付類は413点が確認された。その大半が、18世紀中葉から19世紀にかけての西高木家当主である10代貞臧、11代経貞、12代貞広、13代貞正へ宛てた私的な書状であった。特に多いのが修理（貞臧、経貞）宛と貞正宛である。

作成者をみると、当主の娘もしくはその婿からの書状が目立つ。なかでも貞臧の娘またはその婿からの書状が多く伝わっていることが判明した。これに対して経貞は三男三女に恵まれたにもかかわらず、娘（鎧、鎮、銚）やその婿からの書状がみられなかった。

前述したように、鎮や銚（照光院）の書状は「西高木家陣屋跡主屋襖下張文書」に90通近く存在することから、西高木家に伝わった当主宛の私的な書状が反故として処分されたとき、貞臧娘やその婿からの書状の多くが岡田家へ流れ、経貞娘からの書状は西高木家陣屋の襖下張として利用されたのではないだろうか。

この他では、宇佐美恵助、秦鼎、野呂公麟、大

石半右衛門など、「学芸」に分類できた書状が多く存在する。これらは蔵書家で文人風雅の当主であった貞臧に関係するものと推測される。

書状以外では、家臣の取立・出仕・勤向に関する書付の下書、18世紀の老中奉書11通、大坂御用場における廻米為替産物交易品の取り扱いを田辺屋・三河屋・西川屋に委任することを記した一札などがみつかった。

3. 高木家所蔵文書

西高木家直系のご子孫である貞勝氏が戦後も処分することなく保持してきた近世以来の文書については、伊藤孝幸が二度にわたる調査で158点を確認し、「高木貞勝氏所蔵高木家文書目録」を発表した（『名古屋大学古川総合研究資料館報告』10～11、1994～95年）。その後、秋山晶則が本願寺改派問題に関する文書13点一括を新たに確認し、「高木貞勝氏所蔵文書（補遺）」として目録を発表している（『名古屋大学附属図書館研究年報』1、2003年）。

このたび再調査により、近代文書を含む61点を新たに確認することができたので、それらを「高木家所蔵文書目録（高木貞勝氏所蔵高木家文書目録 その三）」として発表する。

なお、目録の公表にあたっては、秋山が紹介した13点から掲載した。秋山は、伊藤の「目録（その二）」（通番67～111）を見落としたため、番号を「67-あ～す」と付与してしまっている。そこで整理番号を「112-あ～す」と付け直して、新出資料と共に掲載することにした。

近代文書で注目されるのは、調査・貸出関係である。東高木家文書の貸出関係については、筒井稔氏所蔵東高木家文書の中に残っていたが、西高木家文書についても同様の資料がみつかったことで、戦前における高木家文書の活用について研究が可能となった¹⁾。

4. 御三家直状

近世において高木家当主は、徳川御三家当主へ時候や吉凶時の挨拶状を送り、それへの返書を送付される関係にあった。したがって、御三家直状は相当数伝わっていたと想像されるが、これまで確認されたのは9通（尾張2通、紀伊4通、水戸3通）のみであった²⁾。

ここに、新たに6通の御三家直状を確認したので紹介したい。

1通は2017年度に古書店経由で入手した、高木新兵衛宛水戸宰相宗翰の年賀状返書である。宗翰は水戸徳川家の5代当主であり、享保15（1730）年に家督を継いだ。高木新兵衛は享保16（1731）年に西高木家に養子に入り9代目を継いだ高木篤貞にあたる。

後の5通は、吉備慶三郎氏から和歌山市に寄贈された資料で、紀伊徳川家当主の治宝・斉順・斉彊・慶福・茂承が高木家当主に宛てた書状になる。紀伊徳川家当主の直状は、附属図書館所蔵文書の中に4通が伝わっているのみであったので、これで9通の現存が確認できたことになる。いずれも近世後期の当主であった高木修理もしくは弾正（鉄三郎）に宛てた挨拶状になる。

この他、かつて伊藤孝幸が確認した、名古屋城振興協会が所蔵する尾張徳川家当主の直状2通³⁾をデジタル撮影させて頂いた。現状確認できた御三家直状は次の通りである。

尾張徳川家

・〔昇進および帰国の祝詞につき返書〕

（元禄三年）六月八日

尾張大納言光友→高木新兵衛

・〔年賀状返書〕

（享保十六年）正月廿五日

尾張中将宗春→高木修理

以上2通は名古屋城振興協会所蔵。

紀伊徳川家

・〔養子相続の祝詞につき返書〕

九月朔日 紀伊大納言斉彊→高木修理

・〔年賀状返書〕

二月五日 紀伊中将慶福→高木修理

・〔年賀状返書〕

二月十一日 紀伊中将慶福→高木修理

・〔年賀状返書〕

二月五日 紀伊中納言茂承→高木弾正

以上4通は高木家文書補遺。

・〔年賀状返書〕

二月廿六日 紀伊中納言治宝→高木修理

・〔大御所様薨御の来札につき返書〕

（天保十二年）三月廿四日

紀伊大納言斉順→高木修理

・〔年賀状返書〕

二月六日 紀伊大納言斉彊→高木修理

・〔年賀状返書〕

二月五日 紀伊中将慶福→高木修理

・〔年賀状返書〕

三月六日 紀伊中納言茂承→高木鉄三郎

※以上5通は和歌山市所蔵。

水戸徳川家

・〔参府に際する来訪につき礼状〕

四月十七日 水戸宰相綱条→高木新兵衛

・〔年賀状返書〕

正月廿九日 水戸宰相宗翰→高木新兵衛

以上2通は高木家所蔵。

・〔年賀状返書〕

正月廿六日 水戸宰相宗翰→高木新兵衛

以上1通は名古屋大学附属図書館所蔵。この他、個人蔵で、高木新兵衛に宛てた水戸宰相光圀書状と西山陽士光圀書状の存在が報告されている⁴⁾。

5. 新規購入資料

2019年3月に名古屋の古書店から附属図書館が購入した古文書18点のうち15点が、かつて西高木家に伝来していたものであることを確認した。内容は勘定目録、家臣の分限録・御給扶持書出帳、幕末の参府関係手控、江戸屋敷図、金銀請取渡万覚帳、借財関係帳簿などである。白木桐箱文書⁵⁾の一つであった「津谷村之住高木党之事」1冊も含まれていた。

・〔享保十五戌年御定米目録〕

（享保十五年）

・式拾ヶ年取米調帳

（明治三年）

高木広家来林寅助→笠松県御役所

・御家中分限録

弘化二乙巳年八月改

・御家中分限録

文久二壬戌年十一月改

・御家中御給扶持書出帳

文化十四丁丑年十二月ヨリ

小鹿左兵衛、三和六左衛門

・御参府ニ付諸事心得手覚

- 嘉永七年寅四月 御台所方
- ・御参府ニ付御用向手扣
 - 文久四甲子年正月ヨリ 三和六左衛門
- ・江戸御屋鋪之内御払物品々附留帳
 - 元治二年丑二月 平塚忠四郎
- ・江戸西大久保御屋鋪下絵図
 - 天保六未年
- ・〔多良屋鋪御払箇所絵図〕
 - (近代)
- ・津谷村之住高木党之事
 - (白木桐箱文書 四番)
- ・金銀請取渡万覚帳
 - 明和四年亥正月吉日 松井周右衛門
- ・御借用金証文扣帳
 - 天保八丁酉年四月改 御勝手方
- ・一身田御名目金御借財一件帳
 - 安政五戊午年六月改
- ・御勝手向御改革下調
 - 明治三年年正月

II 東高木家文書

1. 広栄寺文書

大垣市上石津町時山の広栄寺には、東高木家の旧蔵になる文書群が伝わっていることが以前から知られていた。すでに名古屋大学附属図書館高木家文書調査室が1975年に調査に訪れていたが、このたび改めて調査・整理させて頂いた結果、263点の文書を確認し、「広栄寺文書目録」を発表した(『名古屋大学附属図書館研究年報』15、2018年)。

広栄寺に伝来する東高木家旧蔵文書は、元来は「時山邑道場一件」と墨書された木箱に収納されていたものである。これは宝暦9(1759)年に始まり寛政3(1791)年に結着した広栄寺(時山村道場)に関わる争論関係文書が中心をなしている。

争論は、時山村の村民たちが信仰の場であった道場(広栄寺)に結集して自立を企てようとしたことが発端となって始まり(時山村百姓師檀出入一件)、明和元(1764)年11月には百姓たちが大挙して江戸に出訴する事態に発展した(時山村百姓江戸出訴一件)。この問題は安永3(1774)年に高木大炊(東高木家8代)が「貫請」して、その解決が東高木家に一任され、寛政3(1791)年に最終的な結着をみた。道場広栄寺の争論関係文書は附属図書館所蔵文書の中にも多く残っている

が、広栄寺文書によって東高木家が「貫請」して以降の動向がわかるようになった。

2. 国立臺灣大學圖書館所蔵東高木家文書

国立台湾大学図書館が所蔵する東高木家文書は、戦前の台北帝国大学時代に東京の古書店から購入したものである。研究分担者の池内敏を中心とした現地調査によって存在を確認した⁶⁾。虫喰等のため解読困難な文書が少なくなかったことから、台湾大学図書館と協力の上、文書の修復をおこない、錯綜していた内容を整理し、「国立臺灣大學圖書館所蔵東高木家文書目録」を発表した(『名古屋大学附属図書館研究開発室』16、2019年)。

この結果、年代不詳の「琉球人登城并上野御宮参詣行列」1冊と、文化3(1806)年、天保3(1832)年、天保13(1842)年、嘉永3(1850)年の琉球人参府御用のための国役金上納に関する文書43点を確認することができた。いずれも江戸に派遣された琉球使節に関わる文書である。当時の台北帝国大学国史学講座は琉球諸島関係の書籍を意識的に収集しており、そうした中で購入したのではないかと池内は推測している。

琉球人参府御用のための国役金上納に関する東高木家文書は、この他には大倉精神文化研究所に嘉永期の4通が伝わるのみである。台北帝国大学と大倉精神文化研究所は、同じ時期に、東京の巖松堂から東高木家文書を購入しており、両者の琉球関係文書は、本来はひとまとまりの文書群であったと考えられる。

3. 朝鮮国内裏并陣場之図

かつて東高木家に伝来していた「朝鮮国内裏并陣場之図」が名古屋市秀吉清正記念館に所蔵されていることが確認され、「特別陳列 秘蔵の逸品」(2019年10月12日～12月15日)において公開された⁷⁾。同図は五枚あり、東高木家初代の貞友が文禄役に出征した際に自ら作成した京城図として、東高木家に代々伝わっていたものである。高木貞往が延享5(1748)年に納めた木箱、布地三葉、辻善之助書簡、展覧会出品札が共に伝わる。1967(昭和42)年に記念館が東京の古書店から購入し、『館藏品目録』(2001年)にも掲載されていたが、特別陳列の準備において東高木家伝来品で

あったことが判明した。

絵図は、他の初期文書（高木三家に伝来した戦国から織豊期にかけての古文書）と共に、1920（大正9）年に東京帝国大学史料編纂掛の渡辺世祐史料編纂官が調査し、複製を作成して以来、行方がわからなくなっていた。このたびの「発見」により、昭和戦前期に保阪潤治氏の所蔵になっていたことが判明した。

保阪氏（1875～1963年）は、越後の大地主であり、書画骨董、特に古文書の蒐集家として知られる。大正期に上京して以降、竹越与三郎・布施秀治・吉田東伍などの学者を自宅に招いて意見を求め、また史料的価値の高い書画骨董の購入に際しては史料編纂所の三上参次・辻善之助を顧問とした。史料編纂所において手に負えないような高価な名品は保阪氏が購入し、いつでも閲覧できるようにしたという⁸⁾。

このたび改めて関係文書を調べ直してみたところ、「朝鮮国内裏并陣場之図」のみならず、東高木家の初期文書も、保阪氏の手に渡ったことが推察された。以下、時系列に経緯を追ってみたい。

1931（昭和6）年12月刊行の『岐陽遺文』に東高木家伝来の信長書状の写真が収載された。同書状は「養老郡多良村 高木貞一氏所蔵」となっていたが、貞一氏はこの頃大阪へ転居しており、書状は東京の保阪氏が保管中であった⁹⁾。このため信長書状の写真撮影に際しては渡辺世祐が仲介したようで、『岐陽遺文』に「格別の御尽力を得たことを深謝する」と記されている。

1932（昭和7）年5月3日の書状で辻善之助（史料編纂所所長）は、「朝鮮国内裏并陣場之図」は紙質書風墨書等からみて当時のもので、文禄2（1593）年正月の碧蹄館の戦いの頃に描いたものとする見解を、保阪氏へ述べている。

1934（昭和9）年3月発行の『京城府史』第1巻に、史料編纂掛が模写した「朝鮮国内裏并陣場之図」のうち1枚が掲載された。原本はまだ高木家所蔵となっている。

1942（昭和17）年4月28日から開催された「大東亜への回想 豊公大（^マ）展覧会」において保坂潤治氏所蔵の「朝鮮役絵図」5枚と「幕切（朝鮮役使用）」3裂が出陳された¹⁰⁾。絵図と共に伝わる展覧会出品札はこの時のものである。「朝鮮国内裏并陣場之図」は1942年までに保阪氏の所有に移っ

たことがわかる。

この他、中島俊司は、渡辺の史料探訪時に発見された大石内蔵助書状も「後年越後保坂家に移ったと記憶して居ります。」と回想している¹¹⁾。

以上から、東高木家に伝来し、史料編纂掛が史料探訪の対象とした貴重な初期文書や絵図は、昭和10年代には、保阪氏の所蔵に帰したものと思われる。

保阪氏の蒐集品は、敗戦後の財産税のため多くが売却され、残った品も潤治氏没後に相続税の対象となって納税のため売り払われてしまい、わずかに近世文書が残されるのみとなったとされる。「朝鮮国内裏并陣場之図」が古書店に出たのは、保阪潤治氏が亡くなった後になる。

Ⅲ その他の資料群

ここでは、三家の別が明確でない資料群もしくは高木三家伝来ではないが高木家と関わりのある資料群を取りあげる。

1. 関ヶ原歴史民俗資料館所蔵高木家文書

関ヶ原町歴史民俗資料館が所蔵する高木家文書は150点を数えるが、伝来が定かでなく、高木家との関係が明確でない文書も存在する。大半を占めるのが、元禄国絵図作成に際して絵図元（国ごとの受持）の大垣・加納両藩の藩士と高木三家の家臣との間で取り交わされた書状および国境証文・小絵図である（120点）。

この他、東高木家の知行高・朱印高を記した高帳類、藪谷山や岩須村周辺の絵図、尾張藩領であった濃州安八郡中村の懸廻堤築立願に関する書付、高木経貞の新年挨拶状などが存在する。

高木家との関係が明確でない文書としては、池田井水関係、安八郡中村の帯刀関係、粮米人足諸色調帳、大野郡の村略図などがあった（18点）。

調査の結果は、「関ヶ原歴史民俗資料館所蔵高木家文書目録」（『名古屋大学附属図書館研究年報』12、2015年）において紹介した。

2. 多聞櫓文書

高木三家が幕府に提出した文書が、国立公文書館内閣文庫多聞櫓文書に伝わる。以前に伊藤孝幸が調査していたが¹²⁾、このたび再調査した結果、102点を確認した。高木家文書目録の分類にした

がい内訳を整理すると、一つには初目見・仮養子関係を含む参勤交代に関わる文書が12通ある。二つには明細短冊である。西高木家の修理経貞・鉄三郎貞広、東高木家の大内蔵貞教・義山貞嘉、北高木家の求馬貞有・監物貞栄のものが計10枚ある。三つには高木貞教の隠居、貞嘉の家督相続に関わる文書1通である。四つには江戸屋敷に関する文書4通である。五つには高木三家の当主が大老または老中に宛てた呈書である。將軍家の法事・昇進・上洛、年頭祝儀、改元、新帝踐祚の際の挨拶状・機嫌伺い状など75通がある。

3. 岩須自治会資料

岩須自治会には、西高木家と青木家の相給になる岩須村と馬瀬村・松之木村との間で発生し、正徳5（1715）年に江戸評定所の裁許となった山論の裁許絵図が伝わっている。法量は250×148センチメートルで、裏に裁許状と奉行11人の署名がある。木箱・紙袋と下絵図1枚が付属する。『上石津町史 史料編』（上石津町、1975年）に裁許状の翻刻が掲載されている（226号文書）。

また、裁許絵図の他に書状2通も伝わっていた。1通は阿部伊勢守家臣から高木修理御用人へ裁許書を差し戻す旨を伝える9月4日付の書状である。もう1通は、常厚院が雅（西高木家11代経貞室）に宛てた年末詳の書状である。

Ⅳ 高木三家文書の統合

古文書の目録は、各文書群が有する性格に応じて作成されるべきであるが、本来一体であった文書群もしくは一体として把握すべき文書群については、現在の所有者の枠を越えた統合を進めなければ、それらが本来もっていた構造や性格を理解するには至らないと考える。近年はデジタル技術の向上により、分散した文書群を統合した横断的相互検索システムの構築が可能な状況となっている。附属図書館研究開発室においても『高木家文書目録』に収録済みの5万2000点余を対象に、古文書一点ごとにメタデータを付与し、デジタル画像および多彩な検索機能をもつ「高木家文書デジタルライブラリー」を公開し、2017年度に全面リニューアルした（https://libdb.nul.nagoya-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000011Takagi）。

リニューアルにあたっては、本学所蔵の高木家

文書のみならず、これまで調査・整理・収集してきた本学以外の高木家文書についても、『高木家文書目録』の分類項目を適用して、順次登録を進めている。これにより、高木三家に伝来した文書群をデジタル上で統合し、所有者の枠を超えた横断検索と貴重資料のデジタル画像閲覧を可能とした。

さらに、高木家の「家」の構造を知るための旧家臣文書、高木家の領主としての性格を知るための地方文書、高木家の役儀を考えるための治水関係文書・絵図についても調査・整理および登録を進めつつある。

調査・公開のご許可をいただき、現在まで登録できたメタデータは80281件、文書群は表の通りである。内容を踏まえて西高木家・東高木家・北高木家・高木家関係に整理し、それらを「旗本高木家文書」と総称している。高木家以外では、西高木家の旧家臣の家筋にあたる小寺家が所蔵する小寺家文書、揖斐川中流域で活躍した豪農日比家の沢田村日比家文書、美濃・尾張の河川絵図や明治以降の木曾三川改修工事に関する絵図なども登録した。

これら高木三家の伝来文書、旧家臣文書、地方の文書群、治水関係文書・絵図は、それぞれが別個に存在するのではなく、西濃地域・木曾三川流域における高木家の活動に関連して生成された地域の文書群として、総体的に把握していきたいと考えている。

すなわち、本研究における「高木家文書」とは、全国的にも希少な旗本文書（附属図書館所蔵文書）を核としつつも、単なる一つの「家」の文書群を指すのではなく、高木三家の伝来文書および三家の活動に関連して生成された地域の文書群の総体を意味する。これらを一体として閲覧・利用できる環境を提供することで、領主制や地域社会研究の基盤強化を促進すると共に、地域資料の共有化という今日的課題に役立てていきたい。

注

- 1) 石川寛「近代における高木家文書の調査と活用」(『名古屋大学附属図書館研究年報』16、2019年)。
- 2) 伊藤孝幸「高木家文書調査報告(補遺の五)」(『名古屋大学古川総合研究資料館報』11、1995年)、156頁。
- 3) 伊藤孝幸『高木家文書調査報告(補遺の三)』(『名古屋大学古川総合研究資料館報告』9、1993年)、301頁。
- 4) 伊藤孝幸「高木家文書調査報告(補遺の四)」(『名古屋大学古川総合研究資料館報』10、1994年)、172頁。
- 5) 石川寛「旗本西高木家伝来の黒漆文庫の復元」(『名古屋大学附属図書館研究年報』14、2017年)。
- 6) 池内敏「台湾大学所蔵の東高木家文書について(調査概要報告)」(『名古屋大学附属図書館研究開発室』15、2018年)。
- 7) 『名古屋市秀吉清正記念館特別陳列 秘蔵の逸品 解説目録』(名古屋市秀吉清正記念館、2019年)。
- 8) 渡辺慶一「保阪潤治翁を憶う」(『地誌と歴史』22、1979年)。木下聡「日本史研究におけるガラス乾板の意義 保阪潤治コレクションから」(久留島典子・高橋則英・山家浩樹編『文化財としてのガラス乾板』、勉誠出版、2017年)。
- 9) 筒井稔氏所蔵東高木家文書・84-な。
- 10) 「大東亜への回想 豊公大展覧会・目録」(高木家所蔵文書155)。
- 11) 伊藤孝幸「高木家文書調査報告(補遺の二)」(『名古屋大学古川総合研究資料館報告』8、1992年)、231頁。
- 12) 伊藤孝幸「高木家文書調査報告(補遺の五)」(『名古屋大学古川総合研究資料館報告』11、1995年)、158頁。

付記

本稿は科学研究費補助金・基盤研究(B)「旗本高木家文書を中心とした分散資料の統合と共有化に関する研究」(課題番号15H03237) および同「木曾三川流域における治水関係文書の高度活用に関する研究」(課題番号19H01306) による研究成果の一部である。

高木家文書デジタルライブラリー 登録文書群

データベース		文書群名	所蔵	メタデータ数
旗本高木家文書	西高木家	高木家文書	名古屋大学附属図書館所蔵	57555
		高木家文書（新規分）	名古屋大学附属図書館所蔵	17
		水野家文書	名古屋大学大学院人文学研究科所蔵	113
		高木家所蔵文書	個人蔵	260
		福長氏旧蔵西高木家文書	大垣市所蔵	2220
		西高木家陣屋跡主屋襖下張文書	大垣市所蔵	848
		岡田家文書	海津市所蔵	413
		筒井稔氏所蔵高木家文書	個人蔵	367
		名古屋城振興協会所蔵資料	一般財団法人　名古屋城振興協会所蔵	2
		吉備慶三郎氏寄贈文書	和歌山市所蔵	5
		多聞櫓文書	国立公文書館所蔵	41
		小寺家文書（Ⅰ）	個人蔵	466
	東高木家	東高木家文書	名古屋大学附属図書館所蔵	5
		美濃高木家文書	名古屋市蓬左文庫	2659
		東高木治水文書（一部公開中）	個人蔵	249
		筒井稔氏所蔵東高木家文書	個人蔵	132
		大倉精神文化研究所所蔵高木家文書	大倉精神文化研究所所蔵	50
		國立臺灣大學圖書館所蔵東高木家文書	國立臺灣大學圖書館所蔵	44
		広栄寺文書	広栄寺所蔵	276
		多聞櫓文書	国立公文書館所蔵	34
	北高木家	北高木家関係文書（準備中）	個人蔵	
		多聞櫓文書	国立公文書館所蔵	23
	高木家関係	関ヶ原町歴史民俗資料館所蔵高木家文書	関ヶ原町所蔵	132
		筒井稔氏所蔵高木家関係文書	個人蔵	9
小寺家文書（ⅡⅢ）			個人蔵	8471
沢田村日比家文書			名古屋大学附属図書館所蔵	5847
流域絵図	河川村絵図	名古屋大学附属図書館所蔵	25	
	木曾三川改修図	名古屋大学附属図書館所蔵	9	
	河川絵図（高木以外）	名古屋大学附属図書館所蔵	9	

80281

高木家所蔵文書目録（高木貞勝氏所蔵高木家文書目録 その三）

整理番号	標題	年月日	作成	宛名	形態	数量	備考
112-あ～す	木仏本尊従本山御下之節御裏と一緒坊官の添状也	天保四（年）十二月廿七日着			包紙		
112-あ～す	木仏安置之節従本山坊官添状納其外書類	于時天保四冬			木箱		
112-あ	〔帰宗により融通繰合せの依頼あるも当節作事中ゆえ断るにつき書付写〕	（天保四年）十月	松井典膳、川那部勘解由、井上司書、笹岡将監	川添本務殿	一紙	一通	
112-い	〔帰宗により融通繰合せの依頼あるも当節作事中ゆえ断るにつき書付写〕	（天保四年）十月	松井典膳、川那部勘解由、井上司書、笹岡将監	川添本務殿	切紙	一通	
112-う	〔大内蔵帰宗及び金談一件別紙写の通り承知願うにつき書状写〕	（天保四年）十月五日	松井典膳書判	大嶽半之進様	一紙	一通	
112-え	覚（来午戌両年に金五十両取計いの通知書付）	（天保四年）十月	松井典膳㊦、川那部勘解由㊦、井上司書㊦、笹岡将監㊦	川添本務殿	切紙	一通	
112-お	〔門主懸命により帰宗ゆえ融通了承願うにつき書付〕	（天保四年）巳十月	高木大内蔵使者・川添本務		切紙	一通	
112-か	借用申金子之事（証文下書、金式百両・月五朱利足）	年号月日	（五名分の線引きあり）	小野善助殿	一紙	一通	
112-き	〔旧年上京時預りの往古返翰本紙返却につき副書〕	（天保五年）正月五日	典膳	本務様	切紙	一通	
112-く	口上之覚（礼金五十両上納を約し浄徳寺余間昇進の執成し願うにつき書付下書）	（天保五年）二月	高木——・川一		切紙	一通	
112-け	〔旧冬聖教類送付のところ志納金千疋進上あるゆえ返礼につき奉書〕	（天保五年）二月七日	川那部帯刀嘉延（花押）、下間式部卿法橋頼功（花押）	高木大内蔵様	折紙	一通	包紙「高木大内蔵様 下間式部卿法橋・川那部帯刀」
112-こ	奉願上口上之覚（一統帰宗にあたり本山直末化望むゆえ執り成し願うにつき書状）	（天保五）午二月九日	高木——内・川一印	集会所月番御衆中	切紙	一通	
112-さ	〔高木大内蔵家中の預け寺区分につき書付〕	年号月日	濃州時村・大橋唯願寺		切紙	一通	
112-し	〔同列方へ伝言願う等につき書付〕				一紙	一通	「112-う」の続きカ
112-す	〔浄徳寺昇進の件は先年の拝借残金五十両返納後に掛合べき旨返答につき書付〕				切紙	一通	
113-あ	〔千村三四郎内馬場九八郎跡に田宮弥七郎を勘定奉行に仰せ付けられの段承知につき返書控〕	（嘉永三年）正月廿九日	小寺勇、三和六左衛門	柳川広左衛門様、小川又兵衛様様	切紙	一通	113-あ～い綴一括
113-い	〔千村三四郎内馬場九八郎跡に田宮弥七郎を勘定奉行に仰せ付けられにつき書状〕	（嘉永三年）正月十七日	小川又兵衛、柳川広左衛門	三和六左衛門様、小寺勇様	切紙	一通	
114	覚（真綿・稗・苧・混の納高勘定）	寅八月廿九日	渡辺佐次右衛門、三輪孫六郎	上	切紙	一通	
115	反求口伝記				切紙	一枚	
116	茶加富喜記				縦帳	一冊	
117	西国じゅんれい哥		京四条通寺町西へ入町・吉野屋勘兵衛板		縦帳	一冊	後欠カ、木版刷

整理番号	標題	年月日	作成	宛名	形態	数量	備考
118	懷宝剣尺	文政十三年庚寅 夏日再刻	書林・京都寺町通 松原下ル・勝村治 右衛門、大坂心齋 橋安堂寺町・秋田 屋太右衛門、江戸 日本橋南通町丁 目・須原屋茂兵衛 藏		折本	一帖	木版刷
119	早引年歴通覧	文政十三年庚寅 四月発行、慶応 四年戊辰五月再 刻	大阪書林・赤松文 華堂・伊予屋善兵 衛梓		折本	一帖	中欠、木版刷
120	増補掌中以呂波韻大成	慶応紀元乙丑歳 十月五刻	発行書肆		折本	一帖	木版刷
121	押印補遺	文化庚午(七年) 二月			縦帳	一冊	後欠、木版刷
122	長うたよせ本 糸の若くさ	天保十四卯年	東都書林・芝三嶋 町・和泉屋市兵衛 □		縦帳	一冊	
123	〔弓術十三ヶ条〕				半縦	一冊	
124	介借伝 全(切腹人介借之法)	(享和三癸亥歳 十二月八日写之 畢)	細井徹之伝		美縦	一冊	
125	武功吟味集				半縦	一冊	
126	邦光社歌会 第廿二集	明治四十二年九 月一日発行	編輯人・広田常 善・発行人・吉田 勘兵衛		半縦	一冊	活版刷
127	遊方四草	昭和七年十二月 二十日発行	編輯兼発行者・松 田道英		半縦	一冊	活版刷
128	〔手習い手本〕				美縦	一冊	木版刷
129	三味せん歌ひかえ				縦帳	一冊	
130	年中日用 用文章		発行書林・京松原 通堀川西江入・菱 屋元七板		美縦半	一冊	木版刷
131	和哥麓之塵 完	明治二十五年二 月二十七日出 版、明治二十七 年二月二十五日 六版	著作者・故人・有 賀長伯、発行者・ 岡本仙助、岡本う の、田中太右衛門、 浜本伊三郎		縦帳	一冊	活版刷
132	法事帳	(近代)	高木家		美横半	一冊	
133	尾州返り証文并佐兵衛年賦手 形写有り 霊鷲院様〆赤池手 形も有				包紙	一枚	
134	〔寒中見舞いにつき書状〕	十二月朔日	稲田九郎兵衛植邦 (花押)	高木弾正様	折紙	一通	
135	〔同名五郎左衛門の腫物治療 願うにつき書状〕	五月廿七日	高木修理貞輝(花 押)	飯沼徹因庵老	折紙	一通	
136	〔申談のため明日のお出で願 うにつき書状〕	三月晦日	神戸源野右衛門喜 行(花押)	上之郷村庄屋中	折紙	一通	
137	〔覚法院殿三百回忌に際して の和歌〕	(一九〇〇年頃)	正七位・源真正		豎紙	一通	
138	御公家鑑		養霞洞		半縦半	一冊	
139	〔豊臣秀吉一門〕				半縦半	一冊	表紙欠、後 欠カ、木版刷

整理番号	標題	年月日	作成	宛名	形態	数量	備考
140	濃勢尾三川普請西高木家古文書総目録 自昭和七年至昭和十一年整理分	(昭和戦前期)			半縦	一冊	「岐阜県」 罫紙
141	〔高木貞元履歴書〕	(昭和十一年)			半縦	一冊	岐阜県履歴用紙
142	〔東宮行啓に際し秘蔵の宝物を恩借につき感謝の書状〕	明治四十二年九月廿二日	養老郡長・沢村忠三郎	高木貞正殿	切紙	一通	包紙「高木貞正殿 御礼状」
143	〔東宮行啓および教育参考品展覧会に際し貴家珍藏品出品につき出品目録を添えて挨拶の書状〕	明治四十三年四月三十日	岐阜県知事・薄定吉	高木貞正殿	切紙	一通	
144-あ～う	信長公信忠公秀吉公家康公朱印貸与ニ対スル東京帝国大学総長ヨリ書翰其他参謀本部ニ貸与シタル合戦絵図ノ目録				封筒		あ～う封筒一括
144-あ	〔帝国大学へ貸与の古文書を謝状を添えて返送につき回送の書状〕	明治廿八年十月十九日	多良村役場㊤	高木貞正殿	縦紙	一通	「上石津郡多良村役場」罫紙、あ～い綴一括
144-い	〔借用史料を岐阜県庁を経て返戻につき書状、目録付〕	明治二十八年九月十七日	帝国大学総長・浜尾新㊤	高木貞正殿	綴	一綴	「帝国大学」罫紙
144-う	〔卯月十七日付高木新兵衛・五郎左宛書状解説につき書状〕				切紙	一通	罫紙
145-あ～う	〔一括封筒〕	(大正10年3月5日消印)	東京帝国大学文学部史料編纂掛	岐阜県養老郡多良村・高木貞元殿	封筒		あ～う封筒一括
145-あ	〔史料貸付依頼につき書状、目録付〕	大正十年三月五日	東京帝国大学史料編纂掛事務主任・史料編纂官文学博士・辻善之助㊤	高木貞元殿	縦帳	一冊	「文学部史料編纂掛」罫紙
145-い	〔史料展覧会へ拝借中の史料陳列願いにつき書状〕	大正十一年四月三十日	東京帝国大学史料編纂掛事務主任・辻善之助㊤	高木貞元殿	縦紙	一通	「文学部史料編纂掛」罫紙
145-う	〔史料展覧会へ借用中の史料陳列につき深謝の書状〕	大正十一年五月十二日	東京帝国大学史料編纂掛事務主任・史料編纂官文学博士・辻善之助㊤	高木貞元殿	縦紙	一通	「文学部史料編纂掛」罫紙
146	〔所蔵古文書の送付催促につき書状〕	大正十年六月十六日	東京帝国大学史料編纂掛事務主任・史料編纂官文学博士・辻善之助㊤	高木貞元殿	縦紙	一通	「文学部史料編纂掛」罫紙、封筒共
147-あ～う	〔一括封筒〕	(大正10年6月27日消印)	東京帝国大学文学部史料編纂掛	岐阜県養老郡多良村・高木貞元殿	封筒		あ～う封筒一括
147-あ	〔所蔵古文書拝借の礼と借用証書送付につき書状〕	大正十年六月廿七日	東京帝国大学史料編纂掛事務主任・史料編纂官文学博士・辻善之助㊤	高木貞元殿	縦紙	一通	「文学部史料編纂掛」罫紙
147-い	〔所蔵文書等借用につき深謝の挨拶状〕	大正十一年九月二十二日	東京帝国大学総長農学博士・古在由直㊤	高木貞元殿	切紙	一通	「東京帝国大学」用紙
147-う	目録(高木貞元所蔵史料目録)				切紙	一通	罫紙
148	〔借用史料返進につき書状、目録付〕	大正十一年九月二十二日	東京帝国大学史料編纂掛事務主任・史料編纂官文学博士・辻善之助㊤	高木貞元殿	縦帳	一冊	「文学部史料編纂掛」罫紙、封筒共
149	〔祖先の十左衛門の名乗及年齢照会につき書状〕	昭和七年七月十四日	内藤吉十郎	高木貞元殿	切紙	一通	封筒共

整理番号	標題	年月日	作成	宛名	形態	数量	備考
150	〔大切な品貸与の礼と文禄戦役展覧会開催案内につき書状〕	昭和拾四年十一月四日	徳川美術館主任・近藤真太郎 [㊞]	岐阜県養老郡多良村・高木貞元殿	切紙	一通	「財団法人尾張徳川黎明会美術館」用紙、封筒共
151	感謝状（特別展来会に豊臣秀吉公朱印朝鮮征伐出陣立書出陳）	昭和十四年十一月三十日	徳川美術館 [㊞]	高木貞元殿	切紙	一通	封筒共
152	〔織田信長公顕彰会景仰祭へ家蔵文書出陳願いにつき依頼状〕	昭和十六年七月十五日	名古屋市長・県忍	高木貞元殿	切紙	一通	封筒共
153	〔織田信長公顕彰会景仰祭へ出陳文書の搬入手続きにつき書状〕	昭和十六年十月二日	名古屋市長・県忍 [㊞]	高木貞元殿	縦紙	一通	「名古屋市」罫紙、封筒共
154	〔大東亜への回想・豊公大展覽会への出陳資料拝借日時につき書状〕	昭和十七年四月日	豊公大展覽会事務局	高木貞光（マ）殿	切紙	一通	封筒共（欠損）
155	〔大東亜への回想・豊公大展覽会への出陳資料の写真撮影許可願いにつき書状、豊公大展覽会目録同封〕	昭和十七年五月八日	豊公大展覽会事務局	高木貞光（マ）殿	切紙	一通	封筒共
156	〔大東亜への回想・豊公大展覽会へ御尽力を賜り礼につき書状〕	昭和十七年六月八日	大阪市長・坂間棟治、大阪毎日新聞社長・奥村信太郎	高木貞元殿	切紙	一通	封筒共
157	〔展覧会図録贈呈につき書状〕	昭和十八年五月十三日	毎日新聞社取締役社長・奥村信太郎	高木貞元殿	切紙	一通	封筒共
158	〔治水史編纂のため資料借覧謄写依頼につき書状〕	昭和十四年八月廿九日	岐阜県知事・宮野省三	高木貞元殿	切紙	一通	封筒共
159-あ～き	〔一括封筒〕		岐阜県	養老郡多良村・高木貞元殿	封筒		あ～き封筒一括
159-あ	〔去る九月十一日拝借の史料は来月上旬に返却するので引き続き別紙史料の拝借願うにつき書状〕	昭和十四年十月十六日	岐阜県河川課長	高木貞元殿	縦帳	一冊	「岐阜県」罫紙
159-い	〔訪問の礼と借入証送付につき書状〕	（昭和十四年十一月十三日）	安江、森	高木貞元様	切紙	一通	「岐阜県」罫紙
159-う	仮借用証	昭和十四年十一月十一日	治水史編纂員・森義一 [㊞]	高木貞元殿	切紙	一通	「岐阜県」罫紙
159-え	〔資料拝借の礼と本県借覧証差上につき書状〕	（昭和十五年）十一月四日	岐阜県治水史編纂嘱託・大野勇、外一同	高木貞元様	切紙	一通	「岐阜県」罫紙
159-お	借用証（目録付）	昭和十五年十一月三日	岐阜県治水史編纂事務嘱託・大野勇 [㊞]	高木貞元殿	縦帳	一冊	「岐阜県」罫紙
159-か	〔史料拝見訪問延引願いと治水史座談会への出席依頼につき書状〕	三月十九日	大野勇	高木貞元様	切紙	一通	「岐阜県」罫紙
159-き	〔拝見済み資料書上〕				切紙	一通	「岐阜県」罫紙
160	〔治水史資料拝見のため参上日程につき書状〕	十月二十三日	岐阜県土木部河川課・治水史編纂事務嘱託・大野勇	高木貞元様	切紙	一通	「岐阜県」用紙、封筒共
161	岐阜県治水史資料網文寄贈ノ件	昭和十七年四月十日	岐阜県 [㊞]	養老郡多良村・高木貞元様	切紙	一通	「岐阜県」用紙、封筒共
162	〔信長祭への所蔵文書出品願いにつき書状〕	昭和廿八年三月日	岐阜まつり振興会長・吉川知慧丸、岐阜タイムズ代表取締役・磯田英夫	高木貞元殿	切紙	一通	封筒共